

## 令和元年度 学校評価報告書（総表）

令和 2 年 5 月 27 日

1 学校の概要			
学校名	筑波大学附属中学校	校長名	野津 有司
幼児・児童・生徒数	608	学級数	15
2 教育目標等			
① 学校教育目標	調和的な心身の発達と確かな知性の育成、ならびに豊かな個性の伸長を図るとともに、民主的社会の一員として人生を主体的に開拓し、進んでは、人類社会の進展に寄与することができる人間を育成する。		
② 学校経営方針	<p>本校は教科教育の伝統を受け継ぎながら、筑波大学の附属学校としての先導的教育拠点、教師教育拠点、そして国際教育拠点という役割を果たすとともに、すべての教育研究は「教育課程研究に帰一集中する」という本校の伝統的な考え方にもとづきながら、教科教育はもとより、総合学習や学校行事、特別活動など教科外教育の研究・実践にも取り組むことで、学校目標の実現を目指す。</p> <p>また、小中高大との共同研究組織としての「四校研」において、小中高一貫カリキュラムの研究成果を踏まえ、グローバル及びインクルーシブ教育を特別支援学校との連携を図りながら推進する。</p>		
③ 重点目標	<p>1 四校研を通して小中高一貫カリキュラム開発における先導的教育の継続実践を行い、これをグローバル人材の育成、インクルーシブ教育の筑波型カリキュラムへの開発につなげる方策を研究する。</p> <p>2 6月の教員免許状更新講習では教科ごとの協議会をより密度の濃い発展的な研究活動の場とする。11月の研究協議会では本校の教育研究・教育実践を「中学生」「探究的な学び」をキーワードに発表する。これらの活動を通じて、本校教育の実践を発信する。</p> <p>3 オリパラ教育について継続研究し、グローバル人材の育成に資するカリキュラムを開発する。</p> <p>4 他大学・附属との連携を推進する。</p> <p>5 働き方改革に向けて、問題の発生を未然に防ぐための制度を整える。</p>		
④ 前年度（平成 30 年度）の成果と課題	<p>1 各教科における学習指導の実践研究の推進し、研究協議会や研究紀要として発信した。</p> <p>2 「四校研」を基盤とした小中高一貫カリキュラム開発の成果を元に、より先導的な教育実践を行うべく、グローバル人材育成カリキュラムのための「四校研活動報告中期計画中間まとめ」を作成した。インクルーシブ教育については、なお一層努力していきたい。</p> <p>3 教員免許状更新講習の実践を本校研究協議会との連携を重視しながらその内容と方法の充実をはかった。</p> <p>4 大学や他附属との連携を図りながら、オリンピック・パラリンピック教育の推進を図った。特に、お茶の水女子大学附属学校とは、大学間相互の提携に基づき、小中の提携校進学第 2 回目を実施した。中高の提携校進学についても第 1 回目を実施した。</p> <p>5 HP の更新や学校説明会の形式や内容を改善する等、本校の教育実践の広報活動の充実を図った。生徒による学校紹介の内容を工夫し、一般向け授業公開を充実させた。</p> <p>6 教職員の危機管理意識の涵養に努めたが、保護者対応等においては十分とはいえない状況も一部にみられた。</p>		

### 3 重点目標達成についての総括的評価

1については、各教科での研究会を開き成果を積み重ねた。また、社会科・保健体育科は小中高の授業研究会を実施し、道徳科については実施予定がコロナウイルス感染防止のため中止とした。

2については、参加者の満足度の高い質の高い公開授業と研究協議の場を設けることができた。

3については、HRHや総合学習の時間を中心に、オリンピック・パラリンピックの精神を生徒に体感させる実践を積み重ねた。

4については、学校、管理職、授業協力、研究や研修、部活動・委員会活動などで、交流を行い、その成果を校内に還元することができた。

5については、保護者や家庭への支援体制、保護者の意見や要望を聞く機会を充実させ、大きなトラブルとなる前に問題解決ができるような体制を整えた。

### 4 令和2年度の学校課題

新型コロナウイルス感染防止のための、従来の方式にこだわらない学校体制の構築。具体的には「ハイブリッド方式」による学びの確保と、ICTを用いた学校運営体制により、新たな学習、家庭との連絡、広報、入試運営等を具体化し実現していく。

### 5 学校課題に向けての具体的な取り組み

ロイロノートによるハイブリッド方式の研究の蓄積と教職員の技能の向上を行っている。特にロイロノートは全教科の授業が可視化されるため、他の教員の授業を見て研鑽することができる。また、必要なICT環境の整備を行う。あわせて、学校課題を教職員が共有し、意識の変革をすすめていく。

### 6 成果物一覧（出版物・紀要・書籍等）

所報 第69号（2019年5月）  
教育課程研究 総合学習研究44（2019年5月）  
第47回研究協議会 発表要項（2019年11月）  
研究紀要 第72号（2020年3月）

# 学校評価（自己評価）報告書（項目別表）

令和元年度

学校名	筑波大学附属中学校
-----	-----------

項番	評価項目	具体的評価結果
1-1-3	体験的な学習や問題解決的な学習、児童生徒の興味・関心を生かした自主的・自発的な学習の状況	校内授業研究、校内研修、校外での研究会参加、書籍の執筆等を通して、生徒の興味・関心を生かした学習のための、教育内容・方法・教材等の開発を行うことができた。
1-1-9	授業や教材の開発に地域の人材など外部人材を活用し、より良いものとする工夫の状況	教科の授業のほか、総合学習、HRHを通して、外部機関・卒業生・修学旅行先の公共機関・農家・ボランティア・専門家などの外部人材の協力を得て、学習を構成することができた。
1-2-2	児童生徒の学力・体力の状況を把握し、それを踏まえた取組の状況	体力テストや各種調査を継続的に行い、その結果を教員に還元して指導に生かすとともに、研究部を中心とした研究活動を継続的に実施した。
2-1-2	生徒理解に必要な個人的資料や、進路情報についての収集・活用の状況	個人データの有機的な結合と、担任団・教科担当・保健担当・部顧問等の迅速で緊密な連絡体制を取り、情報や対応の共有を行った。
4-1-1	児童生徒を対象とする保健（薬物乱用防止、心のケア等を含む）に関する体制整備や指導・相談の実施の状況	HRHにおいて保健指導の時間を確保するとともに、個人面談を定期的に行ったり、カウンセラーへの接続について支援委員会で取り上げるなど、複数のチャンネルからの指導・相談体制を構築した。
8-1-1	授業研究の継続的实施など、授業改善の取組の状況	随時他教科の授業参観は可能であるが、それ以外にも、学校公開、免許状更新講習、授業研究会、四校研授業公開など授業研究の機会を校内で多く持っている。また、他校の公開研究会に積極的に参加する土壌ができています。
8-1-5	臨時採用・非常勤講師等の非正規採用教員の資質の確保・向上に向けた取組の状況	採用においては、人物を重視し、情報収集に努めている。
14-1-1	入学者選抜	教育研究を行う本校の責務に耐えうる生徒を選抜できるよう、出題の形式・内容・選抜方法、結果分析等を丁寧に行っている。
14-1-2	大学との連携・協力	四校研の実施、教科を中心とした免許状更新講習への講師、教科教育法の講師、共同研究、教育実習への協力等を積極的に行っている。
14-1-5	国際交流・国際貢献	各種視察の受入、生徒交流等を積極的に行った。2020年3月に予定していたシンガポールとアメリカへの短期留学は、コロナウイルス感染拡大防止のため実現できなかった。